

◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が160例(男性80例(10歳代6例, 20歳代16例, 30歳代7例, 40歳代16例, 50歳代14例, 60歳代11例, 70歳代7例, 80歳代3例), 女性73例(小学生1例, 10歳代4例, 20歳代17例, 30歳代9例, 40歳代14例, 50歳代17例, 60歳代4例, 70歳代2例, 80歳代3例, 90歳代2例), 未就学児7例(年齢性別非公開))あり, 累積報告数は961例となりました。本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。

○新型コロナウイルス感染症 最新の動向

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>

○京都市衛生環境研究所にゅーす 令和2年度 第1号(通巻139号)(特集! 新型コロナウイルス感染症!)

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/news2020-01.pdf>

- 梅毒の報告が1例(20歳代男性)あり, 感染地域は国内, 感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は41例となりました。

梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け, コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見, 早期治療が非常に重要です。

- 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は1.35(58例)で, 第32週の1.30(56例)から第33週の0.86(37例)へ一旦減少したものの, 今週に入り再び増加しています。全国では1.80で, 前週の1.09からわずかに増加しています。京都市及び全国ともに現在は流行している状態ではありませんが, 高温多湿で食中毒が発生しやすい気候が続いています。手洗いやうがいの励行, 食品の十分な加熱, 調理器具の消毒など予防に努めましょう。

◆ 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

京都市では, 半期ごとのエイズ患者・HIV感染者数を公表しています。本市では, 令和2年1月から令和2年6月末までの間, エイズ患者1例, HIV感染者2例の計3例の報告がありました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 指定感染症: 新型コロナウイルス感染症 160例【1月以降の累積報告数 961例】
男, 80例(10歳代6例, 20歳代16例, 30歳代7例, 40歳代16例, 50歳代14例, 60歳代11例, 70歳代7例, 80歳代3例)
女, 73例(小学生1例, 10歳代4例, 20歳代17例, 30歳代9例, 40歳代14例, 50歳代17例, 60歳代4例, 70歳代2例, 80歳代3例, 90歳代2例)
未就学児, 7例(年齢性別非公開)
- 五類: 梅毒 1例【1月以降の累積報告数 41例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

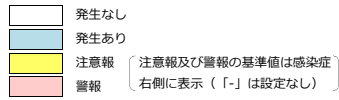
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.35	58
	② 突発性発しん	0.35	15
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.28	12
	④ 手足口病	0.16	7
	⑤ ヘルパンギーナ	0.07	3
眼科	流行性角結膜炎	0.00	0

【次ページ以降の主な内容】

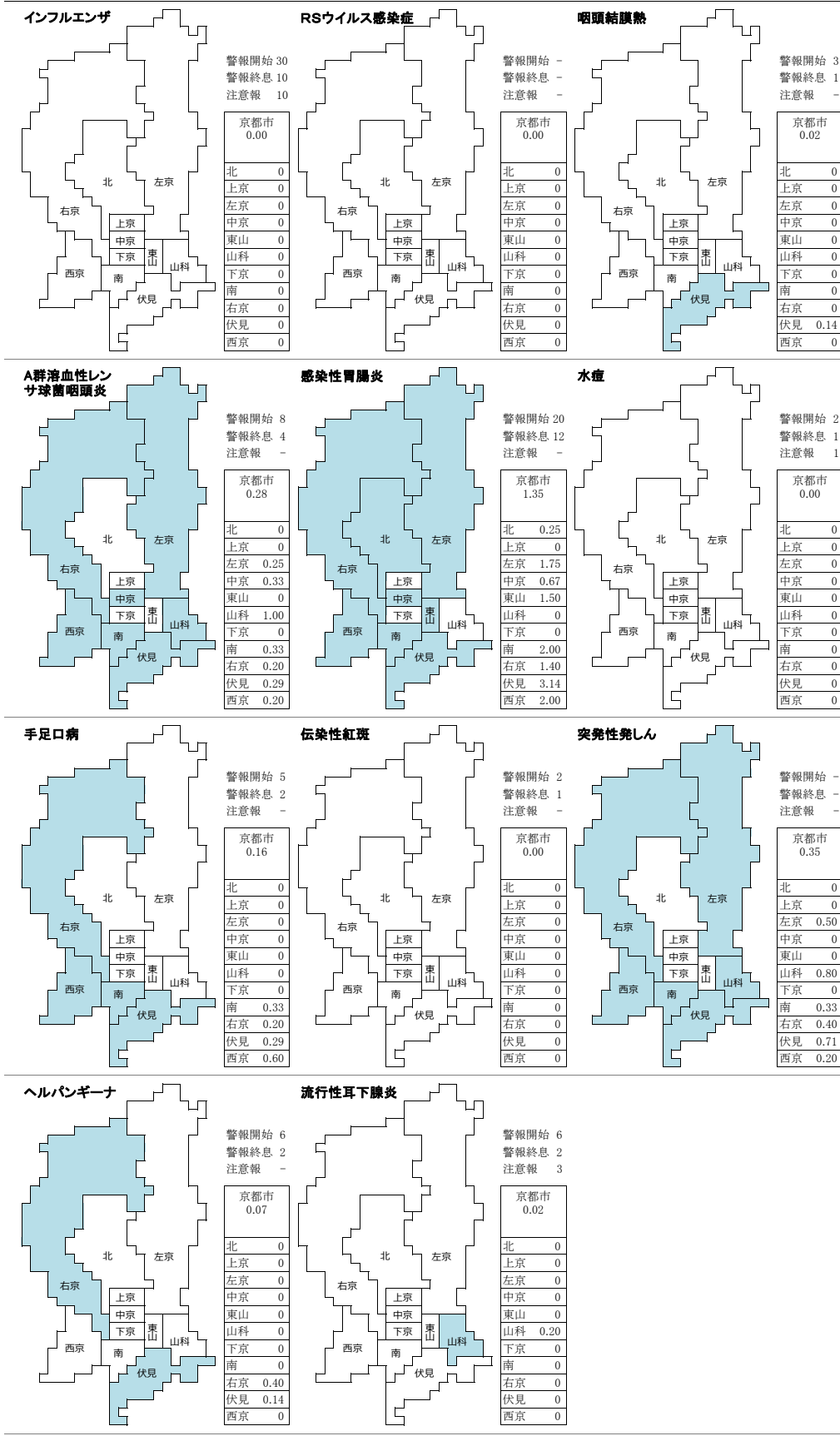
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2020年8月26日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2020年 第34週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。」



第34週(8月17日～8月23日)トピックス: <後天性免疫不全症候群>

京都市では、半期ごとのエイズ患者・HIV感染者数を公表しています。本市では、令和2年1月から令和2年6月末までの間、エイズ患者* 1例、HIV感染者** 2例の計3例の報告がありました(令和2年8月31日公表 下記URL参照)。

昭和62年以降の累積報告数は357例(AIDS患者 117例(32.8%)、HIV感染者240例(67.2%))で、男女別では男性が90%以上と圧倒的に多くなっています(表1)。推定感染経路では、性行為感染が274例で、全体の76.8%を、なかでも同性間の性行為感染が162例と最も多く、全体の45.4%を占めています(図1)。診断時の年齢では、20歳代～30歳代の若年層が約6割を占めています(図2)。

HIVに感染すると、感染初期にウイルス量が急激に増加した後、一旦減り、無症状期(数年～10年程度)を経て、エイズ発症期に至ります。HIVウイルス量の増加に伴い、免疫細胞の数が減り、最終的に免疫不全状態となります。

近年、HIV感染症の薬剤と治療法の飛躍的な進歩により、「HIV感染＝死」ではなくなりました。継続的な治療は必要ですが、感染後、早期に発見し、適切な治療を行えば、免疫力を落とすことなく、通常の生活が送れるようになりました。さらに、二次感染の予防にも繋がります。

このため京都市では平成17年6月からHIV検査を実施しています。なお令和2年8月現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、平日昼間は毎週月曜日に、また土曜日及び日曜日はそれぞれ月に2回ずつで、すべて予約制となっています。詳細については、以下のURLを御参照ください。

*エイズ患者 :HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染し免疫機能が低下したことにより、感染症や悪性腫瘍などの指定疾患を発症した状態と診断されたもの(すでにHIV感染者として報告されているものがエイズを発症する等病状に変化を生じた場合は除く。)

** HIV感染者 :HIVに感染し、無症候性キャリアとして報告されたもの、または何らかの症状はあるがエイズの診断基準を満たさないもの

【エイズ患者・HIV(エイズウイルス)感染者数について(京都市広報資料)】

○<http://www.city.kyoto.lg.jp/menu3/category/36-1-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

【京都市のHIV検査について】

○<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html>

表1 年次別報告数の推移(京都市)

報告年	総数	エイズ患者	HIV感染者	男	女
昭和62年～平成27年	286	93	193	264	22
平成28年	16	5	11	16	0
平成29年	19	9	10	18	1
平成30年	18	6	12	17	1
平成31年(令和元年)	15	3	12	14	1
令和2年1月～6月	3	1	2	3	0
総計	357	117	240	332	25

図1 京都市の推定感染経路別の報告割合(昭和62年～令和2年6月)

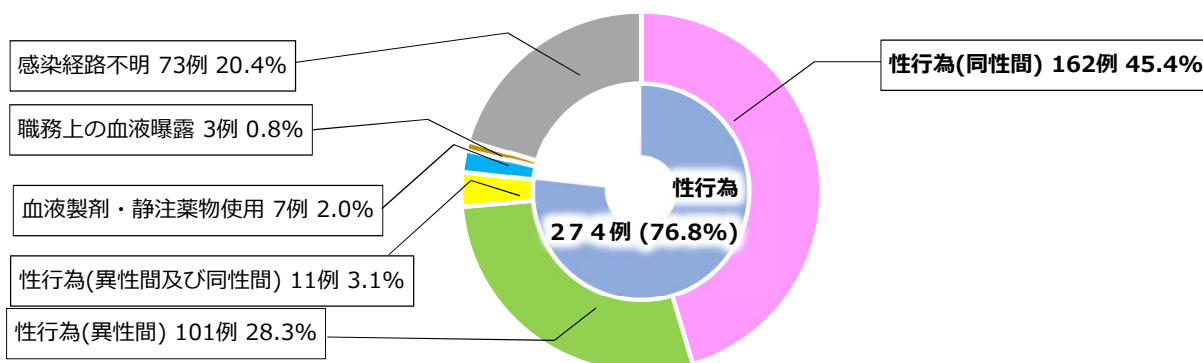
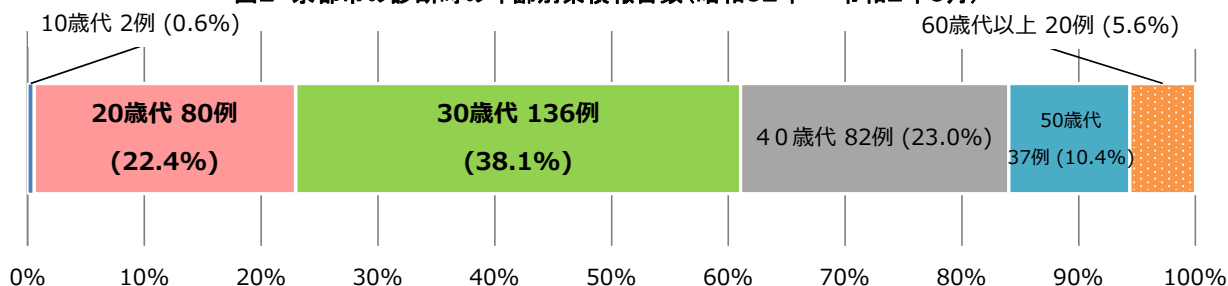


図2 京都市の診断時の年齢別累積報告数(昭和62年～令和2年6月)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第34週

疾病,行政区別報告数

2020年8月17日～2020年8月23日

データ入手日:2020年8月26日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計																		
北	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	1	7	-	-	-	2	-	-	-	-					
中京	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-					
山科	-	-	-	5	-	-	-	-	4	-	1	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
南	-	-	-	1	6	-	1	-	1	-	-	-	-					
右京	-	-	-	1	7	-	1	-	2	2	-	-	-					
伏見	-	-	1	2	22	-	2	-	5	1	-	-	-					
西京	-	-	-	1	10	-	3	-	1	-	-	-	-					
京都市計	-	-	1	12	58	-	7	-	15	3	1	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計																		
北	-	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	0.25	1.75	-	-	-	0.50	-	-	-	-					
中京	-	-	-	0.33	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	1.50	-	-	-	-	-	-	-	-					
山科	-	-	-	1.00	-	-	-	-	0.80	-	0.20	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
南	-	-	-	0.33	2.00	-	0.33	-	0.33	-	-	-	-					
右京	-	-	-	0.20	1.40	-	0.20	-	0.40	0.40	-	-	-					
伏見	-	-	0.14	0.29	3.14	-	0.29	-	0.71	0.14	-	-	-					
西京	-	-	-	0.20	2.00	-	0.60	-	0.20	-	-	-	-					
京都市計	-	-	0.02	0.28	1.35	-	0.16	-	0.35	0.07	0.02	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第34週

年齢階級, 疾病別報告数

2020年8月17日～2020年8月23日

データ入手日:2020年8月26日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		12	-	-	1	-	1	-	1	4	-	1	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		58	-	5	10	6	4	6	3	2	2	1	2	9	2	6	-	-	-	-	-	-
水痘		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		7	-	1	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		15	-	6	6	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		3	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.28	-	-	0.02	-	0.02	-	0.02	0.09	0.09	0.02	-	0.05	-	0.05	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		1.35	-	0.12	0.23	0.14	0.09	0.14	0.07	0.05	0.05	0.02	0.05	0.21	0.05	0.14	-	-	-	-	-	-
水痘		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.16	-	0.02	0.12	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.35	-	0.14	0.14	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.07	-	-	-	0.05	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第34週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2020年8月26日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	4	5	6	2	8	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	41	29	39	22	10	12
感染性胃腸炎	76	43	72	56	37	58
水痘	6	4	1	5	1	-
手足口病	1	4	7	3	2	7
伝染性紅斑	-	-	-	1	-	-
突発性発しん	21	17	17	6	11	15
ヘルパンギーナ	2	3	3	8	2	3
流行性耳下腺炎	-	1	2	1	-	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	1	4	2	1	-
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	151	107	151	106	72	97

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	0.09	0.12	0.14	0.05	0.19	0.02
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.95	0.67	0.91	0.51	0.23	0.28
感染性胃腸炎	1.77	1.00	1.67	1.30	0.86	1.35
水痘	0.14	0.09	0.02	0.12	0.02	-
手足口病	0.02	0.09	0.16	0.07	0.05	0.16
伝染性紅斑	-	-	-	0.02	-	-
突発性発しん	0.49	0.40	0.40	0.14	0.26	0.35
ヘルパンギーナ	0.05	0.07	0.07	0.19	0.05	0.07
流行性耳下腺炎	-	0.02	0.05	0.02	-	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	0.10	0.40	0.20	0.10	-
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	3.51	2.57	3.82	2.62	1.75	2.26

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。